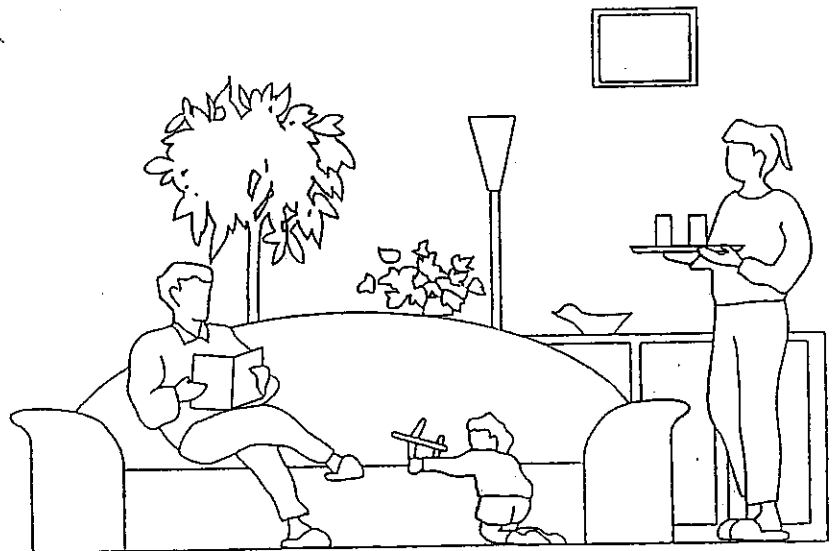


野村ホーム

PaO シリーズ

住まい方の注意点

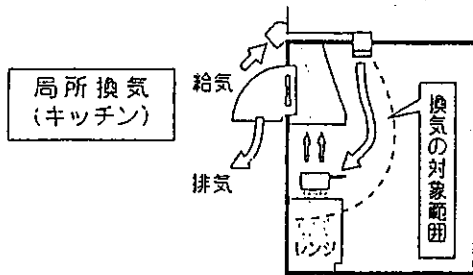


外断熱工法住宅は、高気密・高断熱住宅です。

この性能を維持するためには、住まい方が重要となります。必ず以下の「住まい方の注意点」をよくお読みになり、ルールを守った住まい方をさせていただきますようお願い申し上げます。

I.換気システムは24時間運転が基本

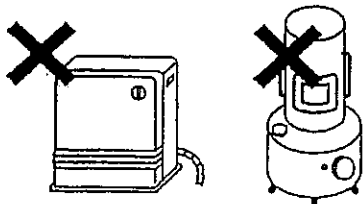
- 高気密・高断熱住宅である「パオ」シリーズは、自然換気がほとんどありません。換気システムを停止させてしまうと室内の空気が汚染することが予想されます。長期にわたる外出の際も換気システムは必ず運転させて下さい。
- 喫煙は局所換気や空気清浄機を設置した居室以外ではなるべく控えて下さい。特に「熱交換型換気システム」の場合は、臭気が他の部屋に拡散してしまう恐れがあります。
- 調理時は必ずレンジファンを運転させて下さい。不完全燃焼の原因となります。
- 内部建具の下部すき間を塞がないで下さい。換気システムが正常に機能しなくなります。
- 窓を開けることは有効な換気手段の一つです。気候の良い時期などお好みによって窓を開けて下さい。
- 臭気やVOC（揮発性有機化合物）などは様々な物から放出されます。（例：置家具・電化製品・化粧品・食品等）特にお引き渡し直後は窓を開けての換気を慣行して下さい。
- 換気システムが故障してしまった場合は、当社お客様相談室までご連絡下さい。
- 就寝中などに、万一停電により換気システムが停止した場合でも一晩程度であれば健康に害を及ぼすことはありません。さらに長期間換気システムが停止してしまった場合は窓を開けて換気をおこなって下さい。



II.使用禁止機器について

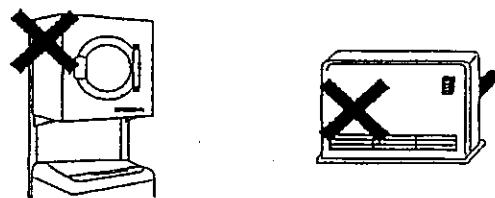
- 石油ストーブやガスストーブなどの開放型燃焼機器は、室内の空気を利用して燃焼し、室内に排気するため、酸素が減少するとともに二酸化炭素が多量に発生しますので使用しないで下さい。
- 排気のみを屋外へ排気するタイプのガス・石油暖房機器やガス乾燥機などの半密閉型燃焼機器は、室内の空気を利用して燃焼させているため、たとえ排気ガス（二酸化炭素）を屋外へ排気しているとしても室内の酸素は減少します。酸欠や不完全燃焼の原因となりますので使用しないで下さい。

〔開放型燃焼機器の一例〕



石油ストーブ・ガスストーブなど

〔半密閉型燃焼機器の一例〕



屋外へ排気するガス乾燥機

屋外へ排気するガス・石油暖房機器

III.使用について十分な注意を必要とする機器について

- 卓上コンロは長時間使用すると酸素量が減少するため、必ず窓を開けて、換気を定期的に行うようにして下さい。また局所換気が行える部屋では換気扇を使用して下さい。

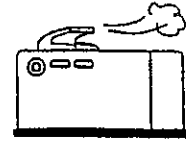
IV.室内湿度について

- 温度計・湿度計は必需品です。必ずご用意頂き、絶えず室内温度・湿度が正常な状況かどうか確認して下さい。
- 住宅内の湿度環境は冬50%前後、夏60%前後が目安です。
- 湿度が高くなると結露、湿度が低くなると病原菌繁殖（風邪にかかりやすくなります）の危険があります。
- 冬はとくに室内が乾燥気味になります。加湿器の使用をお勧めしますが、室内湿度に注意が必要です。
- 浴室からの湿気の流入を防ぐために入浴時及び入浴後は浴室換気扇を必ず使用して下さい。



湿度…冬50% 夏60%

加湿器

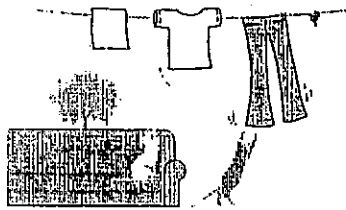
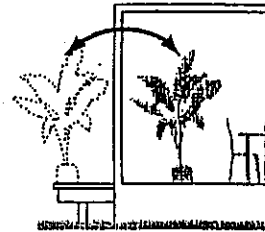


一口メモ：日常生活の中でできる簡単な調湿方法

サボテンなどの砂漠の植物は湿度の上昇を抑えます。



○湿度が低いときは鉢植えを室内に、湿度が高いときは屋外に。



○洗濯物を室内に干すのは乾燥対策に効果的。しかし、高湿度のときに室内に洗濯物を干すと結露の原因になります。

V.メンテナンスについて

- 換気システムを定期的に清掃して、常に清潔にして下さい。
 - 清掃の目安 吸気口…6ヶ月に1回程度 グリル…1ヶ月に1回程度
 - 熱交換気ユニット（熱交換型換気システムの場合）…1ヶ月に1回程度
 - （具体的な清掃方法は換気システムの説明書に従って下さい。）
- 気密・断熱層を傷つけないで下さい。下記のような場合や増改築する際は必ず当社リフォーム事業部にご相談下さい。
 - 外壁に開孔しないで下さい。無計画に空調設備配管や電源・アンテナ等の配線を室内に引込むと、気密・断熱層を損傷し、住宅性能に支障をきたすことがあります。
 - 外壁や屋根にビス・釘などを打ち付けないで下さい。下地のないところに打ち付けても支持力が期待できません。また、住宅性能に支障をきたすことがあります。

VI.その他

- 臭いの強いヘアースプレー・室内芳香剤・蚊取りマット等をご使用になると臭いが残る場合があります。その際は窓を開けての換気をお勧めします。
- 春や秋の季候の良い季節は窓を開けて自然の風を取り込みましょう。高気密住宅は必ず閉め切らないといけないというものではありません。窓を開けての自然換気と換気システムを併用しても差し支えありません。
- 窓まわりの空気が逃げにくい形状のカーテン等は、窓まわりが結露する恐れがあります。
- 白熱灯を多用すると、冷房効率が落ちることがあります。
- 換気システムは、作動音がします。

